

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

イコールチャンス株式会社

【サービス名称】

TERAKOYA Program

【サービスの支援項目】

カテゴリ-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

2026年1月



■ 探究・校務改革支援サービスの概要

1. サービスの概要、特徴

TERAKOYA Programは、「社会全体で次世代を育てる」をミッションに、探究学習とキャリア教育を掛け合わせた教育プログラムです。授業企画から教材開発、授業実施、分析・評価までを一貫して担い、児童生徒の探究的な学びを総合的に支援します。アカデミアの監修と、社会で活躍する企業・専門家の知見を取り入れ、産学連携により探究授業を開発・実施します。

(1) 導入によるメリット、類似サービスとの違い等

- ・ 教員が新たに専門分野を学んだり、一から授業や教材を作成したりする必要もなく、学校単独では扱いづらい新規性・専門性の高い探究テーマを、学習指導要領に沿った授業として導入できる。
- ・ 単発の出前授業や教材提供とは異なり、授業設計・教材開発・実施・振り返りまでを一体で支援するため、探究学習がその場限りで終わらず、学校の取り組みとして蓄積される。
- ・ アカデミアと社会の知見を統合した設計により、探究学習を単なる体験活動ではなく、考えを深め、社会と結びつける学びとして継続的に発展させられる。

(2) 学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

【児童生徒への効果】

- ・ 社会で実際に起きている課題を題材に、「なぜ学ぶのか」を実感できる探究的な学びを経験。
- ・ 調べ学習にとどまらない、思考・対話・試行錯誤を伴う深い探究活動の促進。
- ・ デジタル・AIを社会との関係性の中で捉えるデジタル・シティズンシップの育成。

【教職員・学校への効果】

- ・ 探究授業準備時間を約79%削減(2024年度実績参考)
(平均20.1時間 → 4.3時間/全国18校・約150名調査)
- ・ 社会の最新動向や専門知識に触れることで、日常の授業の質向上にも波及

(3) サービスの活用場面

総合的な探究の時間
キャリア教育・進路指導
デジタル・シティズンシップ教育
教科横断型・探究型授業
自治体主導の教育施策・モデル事業
※ 学校・自治体の状況に応じて調整可能。

(4) 1サービスあたりの標準販売価格

テーマ選択・実施 / 1ライセンス(児童生徒1名)あたり: 10,020円(税別)

学校側において、記載の標準販売価格以外で、本サービス導入時および利用時に必ず発生する費用・作業はありません。

すべての必要な作業等は、当該価格に含まれています。

2. サポート内容（サービスの利用に際しての自社のサポート体制等）

- ・ 専任スタッフ:6名
- ・ アカデミア・有識者連携:約30名
- ・ 潜在的コーチ:約360名
- ・ 潜在的TA（ティーチングアシスタント）:約150名

学校との連携方針

学校側の負担を最小限に抑えることを最優先

<導入の流れ>

- ・ 学校の状況や要望をオンライン中心にヒアリング
- ・ 必要に応じて対面での打ち合わせにも対応
- ・ 進捗共有はメール中心とし、要点を整理した連絡により、やり取りを最小限に抑制

<研修・継続支援>

- ・ 探究学習の成熟度や教職員の要望に応じた研修を実施（教材の活用方法、授業進行、通常科目への展開等）
- ・ 要望に応じて導入後も最新の探究テーマを定期的に共有し、学校が自走的に探究学習を発展・深化させられる体制づくりを支援
- ・ 自治体・学校と連携し、持続可能な導入形態や予算確保についても伴走支援を実施

■ 学校等教育機関の課題と解決策

多忙な教職員の授業設計・実装を伴走支援し、負担を軽減しながら探究の質を高めます。

また、AI倫理・デジタル活用・キャリア設計等の探究学習を通じて、児童生徒へ社会のリアルな課題や知見、学びを自分事化して深く思考する体験を提供します。

児童生徒・教職員が抱える課題

- 児童生徒【課題①】 探究学習が将来や社会とどうつながるのか実感しにくい**
- 探究の目的や意義が見えづらく、学習が形式的になりやすい
 - 「なぜ学ぶのか」が腹落ちせず、主体的に取り組みにくい

- 【課題②】 調べ学習にとどまり、思考が深まりにくい**
- 情報収集が目的化し、問いが深まらない
 - 仮説検証・試行錯誤・対話の経験が不足している

- 【課題③】 デジタル・AIを探究に活かす視点や倫理観が育ちにくい**
- テクノロジーを使うこと自体が目的化しやすい
 - 社会的影響や責任まで踏み込む機会が限られている

- 教職員【課題①】 業務過多により、探究学習の設計・準備・改善に十分な時間を割けない**

- 教材研究や授業設計に継続的に向き合う余力がない
- 探究学習の質を高めたいが、実行が難しい

- 【課題②】 社会の変化を探究学習に反映し、社会とつながる学びを継続的に創出することが難しい**

- 社会、産業、技術の変化を追いきれない
- 外部人材・企業と連携した探究を設計・調整する工数が確保できない

サービスが果たす役割

対児童生徒

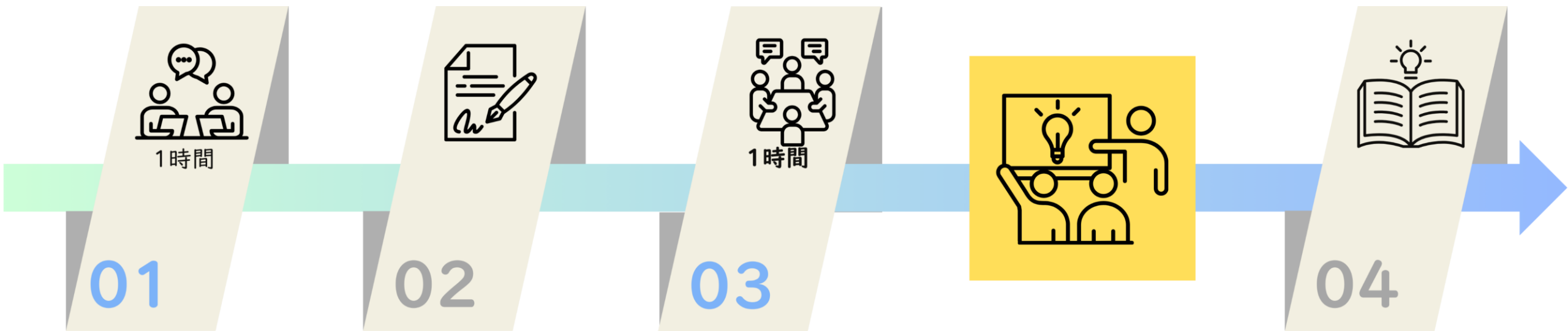
- ① 社会で実際に起きている課題や動きを題材に、学びが社会とどうつながるのかを実感できる探究体験を提供する。
- ② 体験・対話・振り返りを通じて、自分の考えを深め、問いを更新していく探究体験を実現する。
- ③ デジタル・AIを社会との関係性の中で捉え、テクノロジーについて考え、判断する力を育てる探究体験を提供する。

対教職員

- ① 学習指導要領に準拠した探究授業を教職員と共に設計・実装し、授業づくりの負担を軽減しながら探究学習の質を高める。
- ② 社会のリアルな課題や視点を探究学習に取り入れ、学校と社会をつなぐ役割を担いながら、探究内容を継続的に更新する。

サービスの活用風景・授業の流れ

探究学習が社会とのつながりを実感しにくいことや、教職員が授業設計・改善に十分な時間を確保しづらいといった学校の課題に対し、以下の業務フローで解決を図っています。



01

02

03

04

1回目の ミーティング

授業開発 教材開発

2回目の ミーティング

授業実施

授業後の フォロー

※必要に応じて

教職員へのヒアリングを通して学校の
実態や課題を把握し社会で実際に
起きている課題を踏まえた
探究テーマの方向性を整理します

ヒアリング内容をもとに
事業者側で探究授業と教材を開発し
調べ学習にとどまらず
対話や思考の深まりを促す
カリキュラム構成を整えます

開発した授業内容について事前に確認し
進行上の留意点や運用面の微調整を行い
授業が円滑に実施できる状態を整えます

授業後は教材や情報を更新・整理して
提供することで次年度以降も教職員が
活用しやすい形で授業実践につなげます

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	2	学校等教育機関数	5校
--------	---	----------	----

	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	いの町教育委員会	いの町立伊野南中学校	高知県	中学校	1、2、3年生	<総合的な学習の時間> メディアバランス&フェイクニュース
2	いの町教育委員会	いの町立伊野中学校	高知県	中学校	1、2年生	<総合的な学習の時間> メディアバランス&個人情報 AI倫理
3	広島市教育委員会	広島市立楠那小学校	広島県	小学校	5年生	<総合的な学習の時間> メディアバランス&フェイクニュース
4	広島市教育委員会	広島市立広瀬小学校	広島県	小学校	4、5年生	<総合的な学習の時間> キャリア メディアバランス&個人情報
5	広島市教育委員会	広島市立牛田小学校	広島県	小学校	5、6年生	<総合的な学習の時間> メディアバランス&フェイクニュース メディアバランス&個人情報

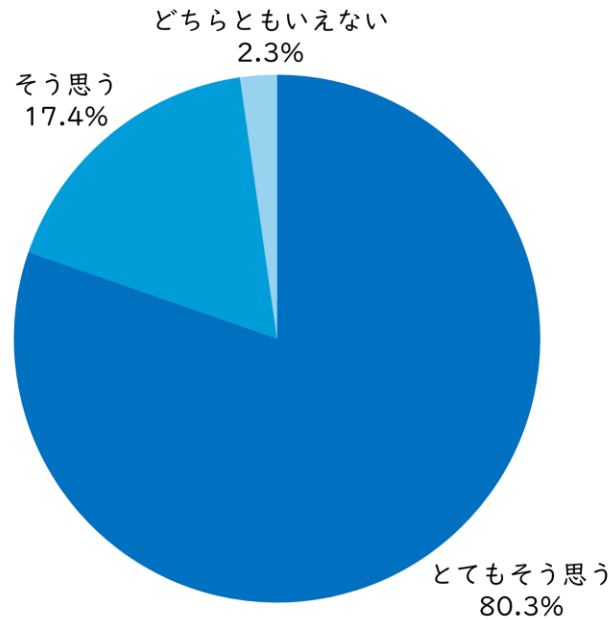
【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

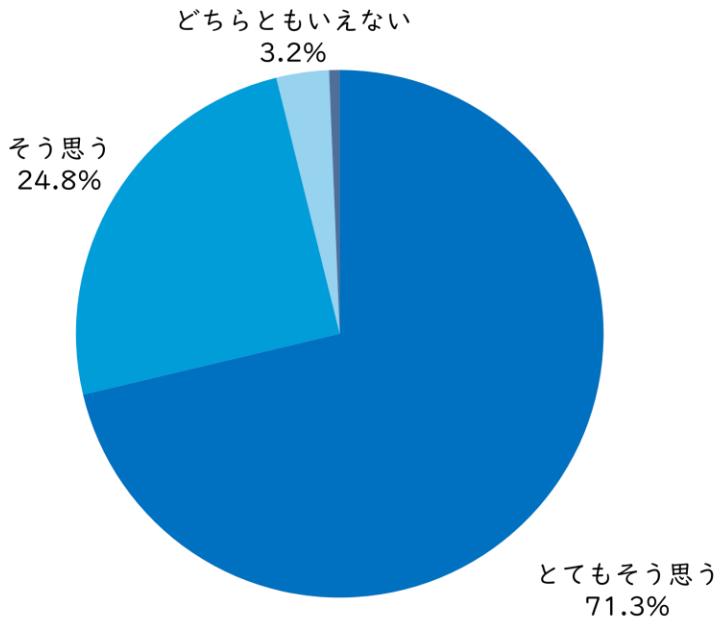
児童生徒(回答数620)



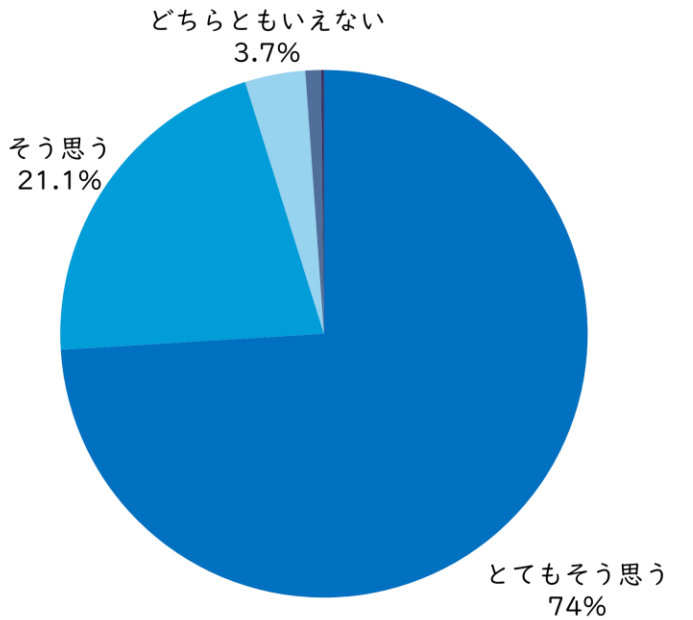
授業はわかりやすかったですか？



授業の内容は今後の学校生活や将来に生かせそうだと感じましたか？



TERAKOYA Programのような、探究授業をまた受けたいと思いますか？



アンケートにおいて各項目の肯定的回答が9割を超えたという事実から、本実践が探究学習に対する価値実感を高めたことが示唆される。探究の進め方や問いの立て方が整理された授業構成により、形式的な調べ学習にとどまらず、考える、対話する、振り返るといった活動を主体とした授業設計が一定程度有効に機能したと考えられる。また、社会で実際に起きている課題や身近なテーマを題材としたことにより、学習が将来の実生活に結びつく主体的な学びへと発展している様子がうかがえる。以上より、本サービスの導入は、児童生徒の思考を深めるうえで一定の効果があったと考えられる。

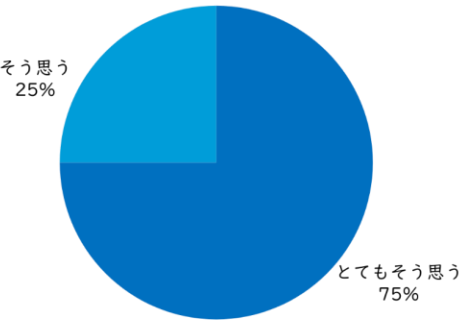
【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

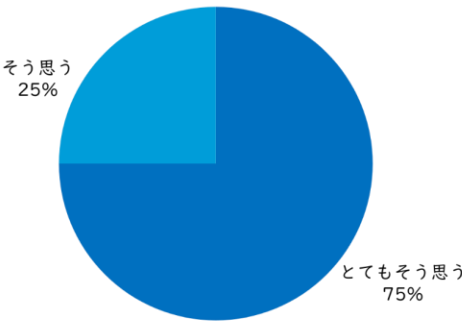
教員（回答数20）



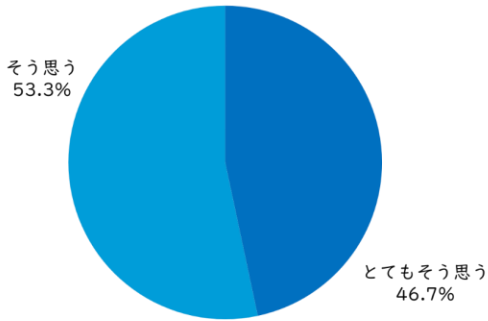
講師の説明は分かりやすかったですか？



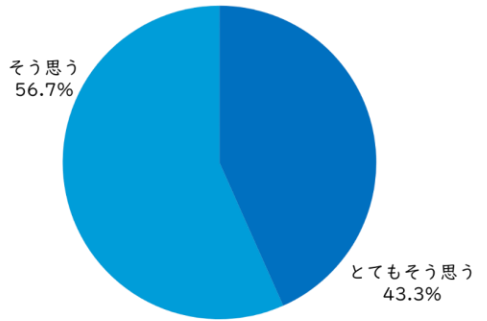
授業の流れはスムーズでしたか？



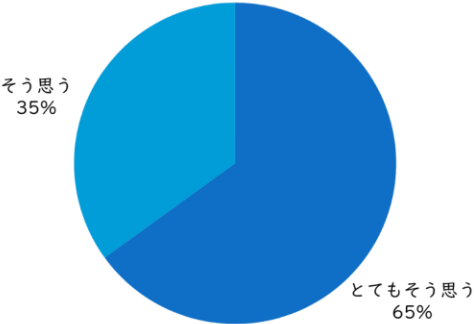
授業の難易度は適切なレベルでしたか？



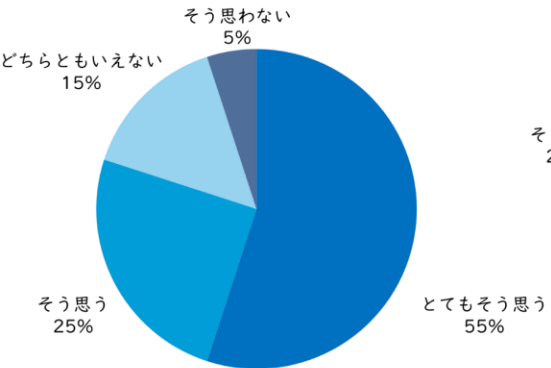
スライドや資料の内容は分かりやすかったですか？



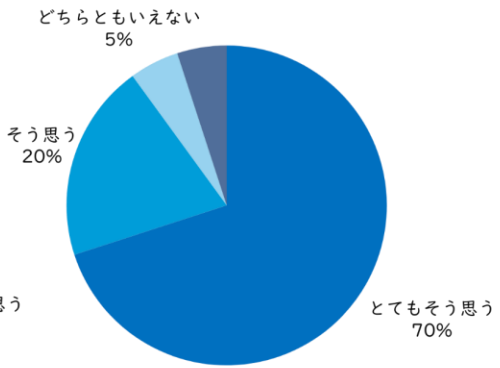
話し合いや発言の機会は適切でしたか？



授業の内容は児童生徒の将来の仕事や進路選択に役立ちそうだと思いますか？



来年度以降もまた、この授業を児童に受けて欲しいと思いますか？



アンケートにおいて「授業の説明や資料の分かりやすさ」「進行の円滑さ」「難易度の妥当性」に対する肯定的回答が大半を占めたという事実から、本実践の構成および進行は、おおむね適切に機能していたものといえる。これは、探究のプロセスや問いの設定が明確に示されていたことにより、教職員が授業の全体像やねらいを事前に把握しやすい構成となっていたためと考えられる。また、「将来の進路選択への有効性」や「次年度以降の継続希望」においても多くの賛同が得られたことから、本学習が単なる知識習得にとどまらず、社会や自己の将来と結びつく学びとして、教職員の間でも一定の価値をもって受け止められていた様子が見取れる。以上より、本サービスの導入は、児童生徒に将来を見据えた主体的な学びを提供するうえで、一定の効果があったものと考えられる。

■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

学校（回答数5校）

児童生徒の探究学習の高度化

設問	導入前平均	導入後の変化
授業の中で児童生徒が課題を発見したり、自分で問いを立てたり、問いを言語化したりする時間の割合	8.9%	15.8%
授業の中で児童生徒が立てた問いについて、自分なりに考えを深める時間の割合	11.9%	19.1%
授業の中で児童生徒同士が話し合いながら考えを深めたり、課題解決に向かったりする時間の割合	21.1%	28.3%
授業の中で児童生徒が自分の考えを言葉にして共有・発表する時間の割合	16.9%	25.3%

教職員の業務効率化・省力化

設問	導入前平均	導入後の変化
先生が新たな探究型授業を企画して実施するまでに必要な時間 （課題分析～目標設定～企画設計～指導計画～教材研究～授業実施～評価/改善）	18.8時間	0時間

授業1コマにおける探究的な学びの時間配分が、導入前と比較して全項目で増加した事実は、課題発見や問いの言語化、思考の深化、対話・共有といった、探究の各プロセスが授業内に確実に確保されたことを示している。これは、探究を促進する仕掛けを意図的に組み込んだことで、児童生徒が主体的に思考・表現する学習活動が、一過性のものでなく、再現性のある授業構造として定着した結果と考えられる。

また、事業者による授業設計および教材開発に関する支援は、教職員の企画・準備に伴う時間的・心理的負担を軽減するとともに、単なる効率化にとどまらず、教職員が次年度以降に自ら探究学習を実践・展開していくうえでの素地形成につながっていたといえる。

以上より、本サービスの導入は、探究的な学びの質の向上と、持続的な実施体制の構築に向けて、一定の効果があつたものと考えられる。

■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

<ul style="list-style-type: none"> 多角的な考察力・批判的思考力と行動計画力の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> AIが言っていることは全部正しいわけではないと分かりました。 テレビや動画で出てくるAIは進化の怖さも感じたけれど、だまされない工夫を理解できました。 AIは使い方次第で便利にも不便にもなると分かり、自分の意見を持って使いたいと思いました。 今回習った内容はこれからの社会で役に立つと思い、自分で判断できる人になりたいと感じました。
<ul style="list-style-type: none"> 課題発見力と問いを立てる力の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる時に一番上のAI情報をすぐ見ている自分に気づき、気を付けたいと思いました。 AI利用のルールについて、今までになく深掘りして考えることができました。 AIに頼りすぎると自分の意見がなくなるかもしれないと考えました。 授業を通して、自分が注意すべきことへの意識が高まり、身近な出来事と結びつけて考えられました。
<ul style="list-style-type: none"> 協働的に思考を深め、表現・発信する力の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 意見の違いとその理由を聞くことで、納得しながら考えることができました。 AIの正しい使い方をみんなで話し合っただけで模索できたのがよかったです。 色々な意見を聞いたことが嬉しく、考えが広がりました。 自分にはなかった視点を知り、考えが深まったと感じました。

教職員の声

- 発言しにくい児童、考えを言語化することが難しい児童、自己主張が強くなりがちな児童それぞれに丁寧な配慮がなされ、全員が安心して考えを深め、共有できる学習環境が構築されていた。
- デジタル依存や職業に関するリアルな体験談を通して、情報を鵜呑みにせず多角的に考える姿勢や、自身の生活・将来と結び付けて問いを立てる力が促進された。
- デジタル機器やAIとの向き合い方について、「使う／使わない」の二項対立ではなく、「どう付き合うか」を考えさせる設計により、情報の取捨選択や判断の根拠を探究する学びが実現していた。

効果まとめ

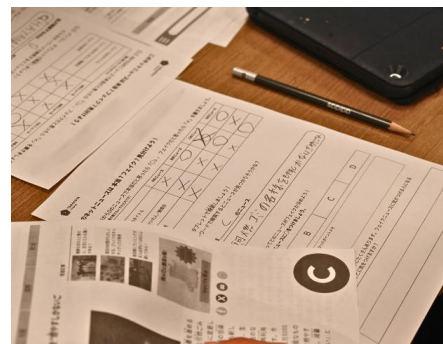
- ✓一人ひとりの思考特性に応じた関わりにより、主体的・対話的な探究姿勢が引き出された
- ✓実体験に基づく具体的な題材提示により、探究テーマを「自分事」として捉える力が育まれた
- ✓「正解を与えない」構成により、批判的思考と意思決定力の基礎が養われた

児童生徒の声

- ・ 今までフェイクニュースやスマホ依存という言葉は聞いたことがありましたが、人にどんな影響があるのかはよく分かっていませんでした。今回の授業で、**使い方を間違えると本当に危険だ**ということが分かりました。
- ・ 正直、インターネットがここまで怖いものだとは思っていませんでした。**楽しいからこそハマってしまい、時間がどんどんなくなっていくことが恐ろしい**と感じました。
- ・ SNSに投稿された写真だけで個人情報が分かるのか疑っていましたが、実際にやってみて**本当に特定できてしまう**ことが分かり、とても怖くなりました。
- ・ メディアバランスについて休日の時間を振り返ってみると、**思っていたよりデジタル機器を使っている**ことに気づき、自分の生活を見直す良い機会になりました。
- ・ こんなにたくさんの仕事があることを知って驚きました。**将来なりたい仕事が変わることは悪いことではなく、自分の価値観に合った職業を考えていけばよい**と分かりました。
- ・ 色々な職業を知る中で、**大人になった時の自分や将来の生き方を初めて真剣に考える**きっかけになりました。これからのことを考えるのが少し楽しみになりました。

教職員の声

- ・ 事前準備から当日の進行まで一貫して担ってもらえ、教員側の負担が非常に少なかった点がありがたかった。丁寧な事前打ち合わせにより、当日は安心して授業を任せることができた。
- ・ 児童の反応を見ながら柔軟に授業や進行を調整しており、満足度の高い授業であった。その場の雰囲気や理解度に応じた対応力の高さが印象的だった。
- ・ 今後は保護者向けにも、家庭での関わり方や留意点を共有する啓発プログラムがあるとさらに良いと感じた。学校での学びを家庭と接続できる可能性を感じた。



■ 探究・校務改革支援サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

提供内容のパッケージ化をベースとしつつ、児童生徒の学びを最大化するため、難易度や環境に応じた可変型の設計を柔軟に取り入れるとともに、事前のヒアリングと合意形成を徹底することで、各校の状況に最適化された質の高い探究学習を実現します。

直面した課題

① 導入時の課題

品質担保のため提供内容をパッケージ化していた結果、児童生徒の習熟度や学級規模、児童生徒特性など、学校ごとの実態に応じた柔軟な調整が難しく、学習効果を最適化しきれない場面があった。

② 実施していく中での課題

授業進行や活動設計を標準化していたため、学校ごとの学習文化や授業スタイル、対話・協働への慣れの違いを織り込めない場合もあり、同一内容の授業であっても学習の深まり方に差が生じた。

③ 実施した結果、新たに顕在化した課題

実施を重ねる中で、教室の広さやICT整備状況など学校の設備・施設環境の違いにより、同一授業でも活動内容や進行方法に制約が生じる場合があることが明らかになった。

④ 実施した結果、新たに顕在化した課題

学校や教職員ごとに探究学習に対する理解度や捉え方、理想とする学習プロセス、目標設定や成果の期待値に差があり、評価方法や授業の進め方も統一されていないため、事業者側が想定する探究学習の設計意図が十分に理解・共有されない場面があった。

解決するための改善策

① 導入時の課題に対して

- ・ 同一テーマ内で難易度・授業構成を複数パターン(基礎/標準/発展)用意
- ・ 学校の状況に応じて選択できる可変型パッケージ設計へ改善

② 実施していく中での課題に対して

- ・ 導入前に、これまでの学校の授業スタイルや学級の特徴をヒアリング
- ・ 学級像に応じた進行上の工夫や補足設計を事前に組み込む

③ 実施した結果、新たに顕在化した課題に対して

- ・ 導入前に教室・設備条件を確認する工程を標準化
- ・ 環境条件に応じた実施方法の選択肢を事前に用意

④ 実施した結果、新たに顕在化した課題に対して

- ・ 探究学習における基本的な考え方、学習プロセス、評価の視点について事前に整理し、教職員向けに共有、認識の標準化を図る
- ・ 授業実施前後に、探究学習の目的や到達イメージを教職員間で確認する機会を設け、認識の統一を図る

社名	イコールチャンス株式会社
代表	小川 圭美
設立年月	2019年2月
本社	東京都中央区築地3-7-11 CubeTsukiji7F
資本金等	非公開
売上高等	非公開
従業員数	10名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 人事戦略コンサルティング 有料職業紹介事業 パーソナルキャリアコーチング 教育事業 PR

■ お問い合わせ窓口

担当：内野直弥

電話：03-6555-4055

Mail:terakoya-program@eqchance.com

